

# MIRAI REPORT

## ISSUE. 009

◆ NoMaps釧路・根室2021 Vol.1

i. NoMaps釧路・根室2021を振り返って

NoMaps釧路・根室2021実行委員会 実行委員長 中島 秀幸

ii. カンファレンス1 「根釧地域における養殖事業の可能性」

iii. カンファレンス2 「AIは中小企業の力になれるか」

iv. カンファレンス3 「駅前の魅力を探せ！大学生による駅前活性化の取り組み」

v. NoMaps釧路・根室2021高校生ビジネスコンペティション開催報告

◆ 根釧の経済概況（令和3年9月）



# NoMaps 釧路・根室 2021 Vol.1

NoMaps 釧路・根室 2021 を振り返って



## NoMaps 釧路・根室 2021 実行委員会 実行委員長 中島 秀幸

今年で第3回目となる NoMaps 釧路・根室 2021 が 11 月 9 日、10 日と実施されました。コロナ禍の中、残念ながら昨年引き続きオンライン開催となりましたが、そのメリットである世界中どこからでも参加できる環境により釧路、根室地域はもちろん、地域外からも多くの皆様にご視聴いただくことができました。心から感謝申し上げます。

NoMaps は札幌発のイベントで釧路根室では唯一公式地方開催をさせていただいています。NoMaps の名前の由来は、アメリカの SF 作家、ウィリアム・ギブスンを追った同名のドキュメンタリー映画にちなんで命名され、「地図なき領域を開拓する」という願いが込められているそうです。私は、地図なき領域、まだ誰もチャレンジしていないことに敢えてチャレンジすることが今の時代非常に大事だと考えています。

コロナ禍により世の中が大きく変わりました。時を同じくして、DX (Digital Transformation/ デジタルトランスフォーメーション) という新たなキーワードが広まっています。DX には様々な定義があると思いますが、私は、変化に対応するためにデジタル技術を効果的に活用し地域や経営を世の中の変化に柔軟に対応しイノベーション (新たな価値を生み出す) を起こすことだと考えています。

今回のカンファレンスでは、水産・AI 技術・駅前活性化・カーボンニュートラル・ワーケーション・アドベンチャー旅行と 6 つのテーマで、それぞれの専門家や実際に活動している方々にご登壇いただき、それぞれの活動内容などをご紹介いただきました。ご登壇いただいた皆様がまさに、それぞれの分野で DX を推進している、素晴らしい取り組みばかりでした。また、同じく 3 回目となる高校生ビジネスコンペティションでは、7 校、20 チームから地域課題解決につながる多くの素晴らしいアイデアを応募いただきました。来年度予定している NoMaps 釧路・根室 2022 では、是非これまで 3 回開催した内容を具体的に地域課題解決につなげる取り組みにできればと考えております。

釧路根室地域が抱える課題を様々な分野の人が連携し、これまでの概念を覆し、NoMaps の精神でその解決にポジティブに取り組むことの重要性が、この NoMaps 釧路・根室を通じて、少しでも多くの皆様に伝わっていれば幸いです。

最後に、NoMaps 釧路・根室 2021 開催にあたり尽力いただいた多くの皆様に改めて感謝申し上げます。そして、更にパワーアップする NoMaps 釧路・根室 2022 を楽しみにしててください。

### 【プロフィール】

1992 年 株式会社サンエス・マネジメント・システムス入社

2017 年 同社常務取締役就任

本業他、釧路 IT クラスタ推進協会会長をはじめ、釧路 IoT 推進ラボの代表や、北海道ブロードバンド協同組合の理事、一般社団法人ラポールくしろの理事等を務め、様々な活動を通じて IoT を利活用した地域の活性化に取り組んでいる。

# NoMaps 釧路・根室 2021

## 11/9 13:30 - 14:30 T.M. オンライン配信

カンファレンス 01

### 根釧地域における 養殖事業の可能性

モデレーター

北海道大学大学院  
水産科学研究院 教授

都木 靖彰

パネラー

はこだて未来大学  
教授

和田 雅昭

水産研究・教育機構  
博士

黒川 忠英

根室市水産研究所  
所長

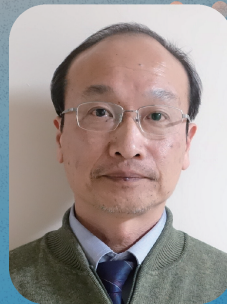
工藤 良二

丸紅株式会社  
エレクトロニクス担当課長

高原 大樹

株式会社ウィルステージ  
代表取締役

大谷 洋士



現在、国内ではご当地ブランドを冠したサーモンをはじめ養殖事業への取り組みが各地で盛んに行われています。根室・釧路地域はこれまで地理的条件等から養殖は不向きであると言われてきました。しかし近年、サケ・マス、サンマ等水揚げ減少が続く中、当地域においても養殖事業の可能性を検討する必要性に迫られています。

当カンファレンスでは、国内での養殖事情を踏まえ、北海道大学大学院水産科学研究院教授の都木靖彰氏をモデレーターに迎えて、養殖の研究や事業に携わられている5名の方に養殖事業の現状や課題を紹介いただいたうえで、将来への陸上養殖を含めた可能性についてディスカッションしていただきました。

#### 『国内サーモン養殖事情とベニザケ養殖技術開発』

##### モデレーター 都木 靖彰 氏

1990年北海道大学大学院水産科学研究科博士後期課程修了、水産学博士の学位を取得。

1989年より日本学術振興会特別研究員、1991年より東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター・助手を経て、2002年より北海道大学大学院水産科学研究科・教授を務める。2005年に組織改編による配置換えがあり、同年より現職。

水産王国として名高い北海道は、周辺の栄養豊かな海域がもたらす水産資源に支えられています。道内の養殖といえばホタテやコンブが代表的ですが、魚については海の中での養殖がほとんど行われていません。これは苛烈な海の環境に因るところが大きく、特に最近では道東沖沿岸の赤潮発生という重大なインシデントもあり、改めて「このまま海洋資源だけに頼り続けて良いのか」ということが喫緊の課題となっています。このカンファレンスでは、北海道、特に根室・釧路地域でどのようにして養殖事業が展開できるのか、可能性を検討していきます。

##### パネラー 黒川 忠英 氏

1961年生まれ、北海道大学水産学部卒業、水産学博士。国立研究開発法人水産研究・教育機構 東北区水産研究所、北海道区水産研究所等で魚類生理、魚類養殖研究に従事し、現在は水産資源研究所釧路庁舎 社会・生態系システム部沿岸生態系管流域グループ 再雇用研究員。趣味は釣り。

近年、国内各地でいわゆる「ご当地サーモン」の養殖が盛んに行われています。本州の代表的な事例として、宮城県のギンザケ海面養殖が挙げられます。宮城では夏の海水温が高いため（養殖限界は18℃）、冬季を中心とした海面養殖を行っています。適水温となる11月～7月の半年しか海面養殖が出来ませんが、ギンザケは成長速度が早いいため、短いサイクルで出荷することが可能となっています。

ここで、根室・釧路地域におけるサーモン、ベニザケの海面養殖の可能性について検討してみたいと思います。サーモン養殖の適水温帯は5-15℃ですが、冷涼な北海道の海域であっても、夏は20℃を超えますし、冬は冷たすぎて不適な地域が大半です。

しかし、夏の道東なら海水温が 20℃以下で、とりわけ根室海峡側については比較的波浪が穏やかなので、冬季の海面養殖を中心とする本州と市場を棲み分ける形で、夏のサーモン養殖、もっと言うと、まだ実現されていないベニザケの養殖が可能になるかもしれません。

ベニザケ養殖の課題としては、温暖化による海水温上昇への対応や、ベニザケ養殖技術・生産体制が確立されていないこと等が挙げられます。また、新たな脅威・赤潮を考慮すると陸上養殖も視野に入れる必要が出てきますが、その場合のエネルギーコストも問題になります。

ベニザケ養殖の具体的事例については、根室市水産研究所で実証試験が行われていますので、次のパートでご紹介いただきます。

## 『根室市ベニザケ養殖実証試験の成果と課題』

パネラー **工藤 良二** 氏

1970 年生まれ、北海道置戸町出身。

北里大学水産学部で水産増殖学を学び、甲殻類（イセエビやロブスター）の研究に没頭。

日本水産学会、日本水産増殖学会に所属、現在は根室市水産研究所に勤務し、ベニザケの養殖技術開発・ハナサキガニやヤナギダコの種苗生産放流に関する技術開発に携わる。

根室市がベニザケ養殖の実証実験を開始した背景には、平成 27 年成立のサケ・マス流し網漁禁止法があります。ベニザケ漁はそれまで根室の一大産業だったため、何とか地元で愛着のあるベニザケを獲りたい、ということでこの取り組みが 2018 年から始まりました。

ベニザケ養殖は他に例がなく、稚魚確保の段階で壁にぶつかりましたが、地元の研究機関の協力も得て、1 年目の試験では 200 尾の稚魚を確保することができました。試験の内容は、7～12 月の 5 か月間、根室港内の海面で種苗を生育するというものでしたが、結果的に、生残率は 47%、大きさは、種苗時に約 300g だった個体が平均 800g、中には 1.4 kg を超す大型の個体も出来たので、初年度にしてはまずまずの結果となりました。

2 年目は、7 月に生育を開始し、残念ながら 9 月に全滅してしまいました。港内の水温が例年より上昇したことが原因と考えられます。

3 年目となる今年も、2 年目同様高水温の影響で、魚のコンディションは芳しくありませんでした。並行して、研究所内で陸上養殖の試験も実施していましたが、海から引く水に赤潮が入り込んだ影響があったのか、全滅に終わりました。ただし明確な原因は調査中です。

海面養殖は水温、陸上養殖は赤潮というように各々課題がありましたが、かつては高い漁獲量を誇ったこの根室で、養殖をやらない訳にはいかないと思っています。地元産業を盛り上げるためにも、ベニザケに限らずハナサキガニなどあらゆる魚種に可能性を広げ、将来の選択肢を準備しておくことが大切で、そのためにも陸上養殖は特に可能性を秘めていると考えています。引き続き、あらゆる手を尽くして取り組んでいきます。

## 『陸上養殖 × 再生可能エネルギー～地域創生の Solution ～』

パネラー **高原 大樹** 氏

2006 年京都大学大学院工学研究科卒業後、丸紅株式会社入社。半導体および電子材料ビジネスに従事。2011 年 7 月より丸紅米国会社シリコンバレー支店駐在として電子材料および再生可能エネルギー関連ビジネスに従事。

2016 年 4 月より丸紅株式会社にて再生可能エネルギー関連ビジネスに従事。

当社では、戦略として「再生可能エネルギーの価値変換」を実施しており、太陽光発電による電力を市場で取引するのではなく、別の価値に変換することで高い事業収益を得ることを検討しています。他社にて高密度農業では既に実績があり、この農業の部分を陸上養殖に切り替えたことが発想の原点となっています。

養殖事業を検討する上で、まず考えなければならないのが採算性の問題です。海面養殖の課題は、旬があること、厳しい労働環境、事業の収益性、海洋汚染、規模拡大が困難であること等が挙げられます。こうした課題を解決できるのが、完全閉鎖型陸上養殖です。

完全閉鎖型陸上養殖の事業モデルを構築する上でまず行ったことがサプライチェーンの改革です。卸売業者や量販店を介せず、生産者から一般消費者に直接販売することで、中間コストを削減して生産者および一般消費者の利益を最大化し、生産元の地域が潤う、つまり地域創生につながるサプライチェーンの構築を目指しました。

また、「完全閉鎖循環式陸上養殖」についてですが、これは養殖システムへの給水および排水が一切必要ないシステムで、当社では株式会社ウィルステージと技術連携しています。技術の詳細についてはウィルステージ社から紹介します。

## 『完全閉鎖型陸上養殖システムについて』

パネラー **大谷 洋士** 氏

1990年3月、立命館大学経済学部卒業後、三井住友信託銀行にて、不動産開発・企画業務等に従事した後、2003年3月に都市開発設計コンサルを主業とする株式会社ウィルステージを創業。創業とともにランドスケープデザイン業務の中で水質浄化の研究を開始し、出身校である立命館大学にて2009年より非常勤講師を務める。2018年から同大学総合科学技術研究機構の客員研究員、2020年より同機構の客員教授。

当社は滋賀県に本社を置き、海のない丘陵地でトラフグやヒラメ、ウナギ、マサバ、ビワマスの業務用陸上養殖を実施しています。滋賀県内に2カ所、1,000坪規模の業務用陸上養殖拠点を設置しており、令和3年度からは甲賀市十山町で廃校を利活用した養殖事業も展開しています。

拠点の設置当初は、トラフグ1万尾、ヒラメ1万尾を養殖していましたが、ここ2年間はコロナ禍での販売先不調に伴う高級魚需要の低迷を受け、他魚種の養殖技術と体制構築に向け、方向性を変えて運営しています。

廃校のような既存建物内で行う完全閉鎖型陸上養殖システムの仕組みとは、飼育時の排泄物や残餌などの有機物から飼育魚に有害な窒素化合物を浄化細菌により生物ろ過し、飼育水を循環させるというものです。稚魚導入時の水質調整が難しいのですが、安定した後はアンモニアや亜硝酸がほぼ検出されない状態となります。

従来の陸上養殖と比較した完全閉鎖型養殖のメリットとしては、開始から収穫まで無換水で飼育する為、排水による環境負荷がないことが挙げられます。また、既存建物の断熱性を更に高めることによって安定した水温で飼育することができ、ストレスが少なく病害菌の感染もない、無投薬の完全にオーガニックな養殖が実現可能です。

当社ではこれからも、周囲環境に負荷を掛けない、安心・安全で低コストの養殖システム開発に引き続き取り組んでまいります。

## 『10年後の消費者志向を見据えた取り組み』

パネラー **和田 雅昭** 氏

2012年度北海道科学技術賞、2014年度北海道総合通信局長表彰、2015年度総務大臣賞等を受賞。

総務省地域情報化アドバイザー、水産庁スマート水産業現場実装委員会委員。

著書に「マシンITの出帆一船に乗り海に出た研究者のお話」がある。

私はこれまで全国各地の様々な魚種の養殖業を見てきましたが、参考にできそうだと思っている事例に山口県のウマヅラハギ養殖があります。この養殖業者はもともと大

量にブリ養殖を行っていたのですが、コロナ禍を契機に蓄養年数の短い、つまり採算性がより高いウマヅラハギのみに絞って、地元の養殖を行っています。

一つここでご紹介したいことがあります。去る2019年、函館でサバが大量に揚がりました。単価も安かったのですが、地元の市場で見かけることはほとんどありませんでした。では、どこで消費されていたのかというと、沖縄県で養殖されているクロマグロの餌になっていたのです。函館で揚がったサバが冷凍で沖縄まで輸送され、現地で溶かされクロマグロの餌になって、そのクロマグロがまた函館の回転寿司店に並ぶ...エネルギー循環の観点から言うと、環境への悪影響は無いのか、疑問が生まれます。

今の時点では、消費者にとっては美味しければそれで良いかもしれませんが。しかし、SDGsやカーボンニュートラルが叫ばれている昨今、10年後を見据えたときに「この魚は環境にどれだけ負荷をかけてきたのだろうか？」という消費者の目線も考慮しなければならないのではないでしょうか。

重要なのは、10年後の消費者志向を見据えることです。仮に陸上養殖を行うにしても、地元の水産加工業者に仕事は回ってくるのか、生産された魚が地域の飲食店でどのように利用されていくのか、といったことも考慮しなければならないと思います。まずは、現在ではなく10年後やその先、世の中でどういうものが受け入れられるのか考えながら、今後の養殖事業の展開について模索していく必要があるのです。

本稿は発言の要旨を一部まとめたものです。  
全編は公式YouTubeにて公開中のアーカイブ映像をご覧ください。  
(右QRコードよりアクセス可能)



# NoMaps 釧路・根室 2021

11/9 15:00-16:00  
TUE オンライン配信

カンファレンス 02

## AIは中小企業の 力になれるか

モデレーター

北海道大学大学院  
情報科学研究院 教授

川村 秀憲

パネラー

株式会社調和技研  
代表取締役

中村 拓哉

株式会社ニッコー  
代表取締役

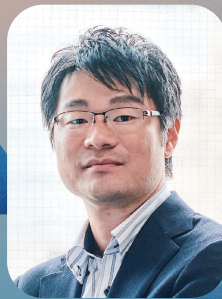
佐藤 一雄

株式会社RHEMS Japan RHEMS技術研究室  
インフラエンジニア / Fab946マネージャー

市川 靖展

株式会社MeeTasu  
機械学習エンジニア

田森 湧斗



ITの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる。いわゆるDX（デジタルトランスフォーメーション）を地域の中小企業がどのように取り込み、いかに活用すれば良いのか。

当カンファレンスでは、北海道大学大学院情報科学研究院教授の川村秀憲氏にモデレーターを務めていただき、AIの第一線で活躍されている専門家とAIを活用し具体的な成果につなげている地元の経営者、エンジニアの皆さまをパネラーとしてお招きし、AI活用の可能性や課題と展望をうかがいました。

### モデレーター 川村 秀憲 氏

人工知能の研究に興味を持ち、ニューラルネットワーク、ディープラーニング、機械学習進化システム、マルチエージェントシステム、データマイニング、ロボティクスなどの研究に従事。企業との産学連携実績を多数持つ。また人工知能に関する論文も多数執筆。

我々の研究室・調和系工学研究室は、企業との共同研究や、スタートアップを多数行っている点が特徴です。当研究室が目指しているのは、人工知能（ディープラーニング）の技術の発展と、様々な社会応用、社会実装へのニーズに応えることです。人工知能+社会との調和＝調和系工学が研究室名にもなっています。

また、北海道大学内で産学連携・共同研究が一番多い研究室でもあり、IoT技術を活用した灯油配送最適化技術等、様々な企業との共同研究によって、人工知能による社会の実課題解決を目指しています。

### 『成功事例を積み上げることの重要性』

### パネラー 中村 拓哉 氏

1986年慶應義塾大学商学部卒業後、北海道拓殖銀行、日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社を経て2011年に調

和技研参加、代表取締役社長に就任。

公益社団法人日本青年会議所「最先端技術が開く未来フォーラム」、NTTデータ経営研究所「田舎×最先端テクノロジーによる新たな地方創生モデル」、北海道経済産業局 ロボット関連ビジネス新規参入促進シンポジウム等 AIの業務導入や地域活性化に関する講演多数有り。

調和技研は、2009年、研究成果の社会実装を目的に北大内の研究室から生まれた認定AIベンチャーです。AI研究開発事業や、知財・ライセンス事業、人材育成事業を行っています。

今回、地域におけるAIの活用という観点からお話すると、少子高齢化や後継者不在といった問題に対処するため、これまで人の手で行っていた仕事をAIに置き換えていこうという動きがここ数年で増えてきました。その中で一層、導入するAIの品質や性能、費用対効果への期待感近年非常に高まっており、我々AI企業としてはニーズにしっかり応えていかなければならないと感じています。

釧路・根室地域でAIの可能性を広げるために重要なのは、地元での「成功事例」を積み上げることだと思います。AI導入に踏み切るのは、中小企業にとってはなかなか勇気のいることだと思いますが、まずは試してみる、ということが重要なのではないのでしょうか。

また二つ目に、我々も今では東京に支店、バングラデシュに子会社を展開していますが、もとをたどれば北海道から誕生した企業ですし、まずは地元の社会課題を解決することが重要だと思っています。我々のところにも道内の農業・水産業といった業種からのお問合せが増えています。そうした地元の課題を、あくまで地元の人・企業を主役に、我々のような AI 企業が連携し解決していくことがカギになると思います。

## 『水産・食肉加工における AI 導入事例』

パネラー **佐藤 一雄** 氏

1993年3月 釧路工業高等専門学校 機械工学科 卒  
株式会社安川商事 (米) ITRAN 社 (米) AcultyImaging 社  
マシンビジョンエンジニアとして従事。2001年4月株式会社  
ニッコー入社。

関東進出のため、東京営業所を立ち上げ、産業用ロボット、モーション技術、画像技術を駆使した導入実績作りに邁進。

2017年1月より株式会社ニッコー本社にて経営業務に従事。  
ディープラーニング、IoTを活用した生産設備開発を手がける。  
経済産業省、北海道経済産業局、農林水産省、日本包装機械工業会、北海道経済連合会、北海道科学技術総合振興センター等、食産業における生産性向上導入事例に関する講演実績有り。

当社では、水産加工機や食産業向けロボットシステム、食品、農畜産加工機を取り扱っています。不定形な原料をいかに安定して加工処理できるかということは、技術開発の主目的である機械の稼働率向上の要素として非常に重要です。AIを活用した技術開発もその一環で行っています。

AIの導入事例としては、(株)調和技研開発のAIエンジンを利用したホタテの不良貝選別システムや、食肉の脱骨システム等があります。

これまで人の手でやっていた経験を機械に落とし込むという点で、AIは非常に親和性の高い技術だと感じています。一次産業の分野や職人技等、AIの応用範囲は非常に高いと感じていますので、今後の技術開発に期待しています。

## 『釧路での AI 利活用状況からみる課題』

パネラー **田森 湧斗** 氏

1998年北海道釧路市生まれ。釧路工業高等専門学校専攻科、電子情報システム工学専攻を卒業。

MeeTasu でエンジニアとして働く傍ら、塾講師の仕事もこなす23歳。趣味はスプラトゥーンをすること。

私からは、釧路における AI 利活用の実態についての問題提起をしたいと思います。

AI と一口に言ってもジャンルは様々ですが、中小企業の多くは AI についての理解が途上だと感じています。ですから、営業担当者が中小企業のお客様に AI の機能や導入するメリットを説明しても「何を言っているの?」という反応をされたり、話を理解してもらえたとしてもコストの問題で導入を見送ってしまうケースが良くあります。

長期的な目で見れば人件費削減等の面で必ずプラスになるのにも関わらず、イニシャルコストに躊躇して商談がまとまらないといったように、短期的な効果を重要視する傾向が、地域の課題だと感じています。

## 『成果の見通しをイメージすること』

パネラー **市川 靖展** 氏

北海道千歳市出身、釧路市在住。2019年株式会社 RHEMS Japan 入社。

AI 関連ではスマートフォンアプリに組み込む、モデルづくりに携わる。

根釧地域ヘデジタルファブリケーション技術の利用機会を提供する施設「Fab946」の運営に関わりながら、作業療法士という異色の経歴を持ちつつ異業種の DX や個々の生活行為のアップデートに興味を持ち現在に至る。プライベートでは2児の父。

まず、AI と言っても、詳しくない方にとっては単語だけが一人歩きしているような状態で、何となく万能なもの、というイメージだけ漠然と持っている方も多いのではないのでしょうか。しかし、実際に AI を活用するためには、具体的にどんな課題を解決したいのかを明確にすることから始めなければなりません。そのうえで、正しく整えられたデータを集め、ひたすら RPG でひたすら敵を倒すように泥臭く、地道な作業を繰り返した上で、成果の見通しがイメージできるようになれば、地元の中小企業も理解が進むのではないかと思います。

本稿は発言の要旨を一部まとめたものです。  
全編は公式 YouTube にて公開中のアーカイブ  
映像をご覧ください。  
(右 QR コードよりアクセス可能)



# NoMaps 釧路・根室 2021

11/9 16:30 - 17:30  
TUE オンライン配信

カンファレンス 03

## 駅前の魅力を探せ!

## 大学生による

## 駅前活性化の取り組み

モデレーター

RINK釧路  
まちづくりラボ

相原 真樹

パネラー

北海道教育大学釧路校  
地域文化研究室3年

吉田 清香

釧路公立大学  
神野ゼミ3年

佐藤 直喜  
高坂 祐人

東島 峻  
宇佐 悠希

釧路公立大学3年

手塚 亜佑

釧路公立大学1年

松原 正道

釧路市都市整備部  
都心まちづくり推進室  
主任

山下 展



かつて釧路市の中心街だった駅前・北大通り地区がシャッター街となる中、駅高架構想をきっかけに地区再生を目指した市民レベルでのまちづくり活動が行われてきています。当カンファレンスでは、地元の大学生が取り組んでいる内容を紹介していただき、大学生の視点でこれからの地域活性化を考えます。

### モデレーター 相原 真樹 氏

1977年神奈川県逗子市生まれ。2002年上智大学理工学部数学科卒業後、株式会社カネボウ化粧品に就職。赴任した北海道釧路市が気に入り、2006年にそのまま移住を決意し就職。現在は生活困窮者支援団体の事務局長を務める傍ら異世代・異業種交流会裸身プロジェクトの代表、くしろ元町青年団の事務局長を務めるなど自他認めるまちづくりおじさん。

### 『くしらボ発足のきっかけ』

大学生による駅前活性化の取り組みが始まった最初のきっかけは、釧路市が鉄道高架化を基本とする「釧路都心部まちづくり計画」を策定し、その計画の実現に向けた官民協働の取り組みの1つとして、民間人参加型の会議体「まちづくりラボ」を設置したことでした。さらに「昔のように若者が釧路駅前に集い賑わうようになってほしい」という思いから、若い世代を巻き込むために知り合いの大学生へ声をかけました。そのようにまちづくりラボの取り組みに賛同して集まった3大学の学生たちが自主的に学生団体「くしらボ」を立ち上げ、現在の活動に至ります。

このパートでは「くしらボ」メンバーである学生の皆さんから当ラボの活動をご紹介します。

### 【くしらボとは?】

釧路市内全3大学の学生たちを主体とした地域密着型のまちづくりプロジェクトで、2021年4月から活動を開始。釧路市観光案内所から①北大通り周辺の町歩きマップが無いこと②観光客からは喫茶店の場所を尋ねられる機会が多いこと③長期滞在の観光客が増えていることのヒントを得て、打ち合わせや町歩き(カフェ巡り)といった活動を定期的に行っている(北海道教育大学釧路校3年 西都 聖美氏より説明)。

### Q. くしらボに参加したきっかけは?

吉田 清香 氏:「西都さんに誘われて参加しました。私自身、元々自転車で北大通りを巡るのが好きだったことや、大学の研究室で地域に関わる活動をしていてまちづくりに興味を持っていたこともあり、この活動に参加することを決めました」

宇佐 悠希 氏:「所属している神野ゼミでは元々北大通りの研究をしており、ある日担当の神野先生からくしらボの話聞いたことが、くしらボの存在を知ったきっかけでした。私自身、高校時代から地域活性化の取り組みに興味を持っていたので、くしらボの活動を通して地域の魅力を伝えたいと思い、参加を決めました」

東島 峻 氏:「宇佐君と同じく、所属ゼミの神野先生から誘われたことがきっかけでした。元々僕は北大通りが好きだったので、くしらボを通して自分の興味あることを

追求できるのではないかと思います、参加を決めました」

## Q. くしラボに入って良かったことは？

**手塚 亜佑 氏**：「各大学同士で交流が出来たことです。くしラボに入らなければ出会わなかった人に出会うことができました。また、何か企画をする際には、各大学の視点から意見を出し合えるのも良いことだと思います。また、カフェ巡りでお店の人に直接お話をうかがえる貴重な機会を得られるのも魅力です」

**高坂 祐人 氏**：「自分たちの足で町歩きをすることによって、実際の現場でしか得られない、新しい気づきを得ることが出来ます。また、学生だけで活動するのではなく、相原さんをはじめとした大人の方々のサポートを得ながら活動を進められることが、くしラボのとても良い点だと思います」

**松原 正道 氏**：「高校時代は与えられた課題をこなすだけのことが多かったものの、くしラボでは周囲の大人たちのサポートを受けつつも学生たちで主体的に課題を見つけて取り組むので、良い経験を積んでいると感じています」

## 『釧路都心部まちづくり計画の概略』

パネラー **山下 展** 氏

釧路市都市整備部 都心まちづくり推進室 主任

釧路駅周辺の再整備計画は、鉄道の高架化が目的ではなく、都心部に賑わいを持たせることを主な目的としています。昨年度策定された「釧路都心部まちづくり計画」の方針は、都心部に継続的な賑わいを持たせるために、地域に根差した空間を作ろう、というものです。地域に根差した空間というのは、色々な世代の人々が繋がり交流して新たな賑わいを生み出すような場所のことを指しています。その点、くしラボは既に世代を越えた交流・活動の場になっていますし、これからも若い世代が積極的にまちづくりへ参画してくれることが、持続的なまちづくりにもつながってくると考えています。将来的にこの活動の輪がますます広がっていくことを期待しつつ、釧路市としても出来る限り活動をサポートしていきたいと考えています。

**相原 氏**：「くしラボに所属している学生さんの大半は、ラボに入るまで北大通りにほとんど来たことが無かったそうです。それが、ラボに参加したことをきっかけに、店主と仲良くなったり、普段から友達を連れて北大通りを訪れる機会が増えたそうです。この現象がまさに“賑わいが生まれている”ということなのではないでしょうか。くしラボの例のように、若い世代のまちづくりの輪が人から人へと広がっていくことが、もっとも地域活性化につながるのではないかと思います。」

本稿は発言の要旨を一部まとめたものです。  
全編は公式 YouTube にて公開中のアーカイブ  
映像をご覧ください。  
(右 QR コードよりアクセス可能)



## NoMaps 釧路・根室 2021

公式 HP は右の QR コードまたは下記 URL  
よりアクセスいただけます。

<https://nomaps-kushiro-nemuro.com>



# NoMaps 釧路・根室 2021

## 高校生ビジネスコンペティション開催報告

### 高校生ビジネスコンペティションの目的

釧路・根室管内の高校生がアントレプレナーシップ（起業家精神）を学び、将来のふるさとへ熱い想いをもちながら、当地域の産業振興、活性化に資するビジネスプランを創造する機会を通じ、地域の人材育成を図ることを目的とする事業で、今年で三回目の開催となります。

### テーマ

#### 01. ビジネスプラン

抽出した課題からビジネスの種を見出し、その課題を解決するための新たなビジネスを企画。ビジネスのマーケットは地域に限らず広く国内外を対象とする。

#### 02. 地方創生プラン

抽出した課題から地域の現状を理解し、その課題を解決するための方策を検討し、地方創生に資する取り組みを企画する。

### 開催概要

高校生数名で1チームを作り、現状の課題を解決することで見えてくる新たなビジネスのプランもしくは地方創生に資するプラン（企画書）を作成し、プレゼンテーション動画と併せて提出します。

プランの作成にあたっては、事前にオンラインで開催する専門家の事前授業にて、プラン作成の考え方や手順、作成方法、プレゼンテーションでの留意点等について学んでから取り組みます。

### 審査・表彰

提出された企画書・プレゼンテーション動画について、9名の審査員による審査を行います。最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞、アイデア賞、みらい賞を設け、各賞に商品、副賞を授与します。

#### <審査員>

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 代表取締役 伊藤 博之 氏  
釧路 IT クラスタ推進協会 会長 中島 秀幸 氏  
北海道教育庁釧路教育局 局長 相川 芳久 氏  
北海道教育庁根室教育局 局長 松田 俊也 氏  
北海道教育大学釧路校 キャンパス長 浅利 祐一 氏  
釧路公立大学 地域経済研究センター センター長 中村 研二 氏  
釧路工業高等専門学校 校長 小林 幸夫 氏  
株式会社 D2garage コミュニティマネージャー 山崎 清昭 氏  
大地みらい信用金庫 理事長 遠藤 修一

### 参加状況

釧路商業高等学校 1 チーム 4 名 白糠高等学校 2 チーム 6 名 別海高等学校 1 チーム 11 名  
釧路明輝高等学校 5 チーム 18 名 標茶高等学校 7 チーム 24 名 根室高等学校 2 チーム 9 名  
釧路湖陵高等学校 2 チーム 8 名 合計 7 校 20 チーム 80 名

（応募内訳：ビジネス部門 3 チーム 地方創生部門 17 チーム）

※新型コロナによる緊急事態宣言で学内活動が制限される中、今年度も多くの参加をいただきました。



## 審査発表・表彰式（オンライン開催）

<11月10日（金）15：30～17：00 本会場：釧路プリンスホテル 2F 鶴の間>

審査発表・表彰式は本会場と各高校をオンラインで繋ぐリアルタイム配信方式で開催しました。参加できなかった高校もありましたが、多くの学生・担当教員の皆様にご参加いただきました。

賞	チーム	プラン概要
最優秀賞	お菓子が町（世界）づくり （別海高校）	町を代表するお菓子を開発し、ふるさと納税返礼品等で販売
優秀賞	食品ゼミ鹿班 （標茶高校）	害獣として駆除したエゾシカを活用した商品（食品・革製品）の開発
	ふあん （釧路湖陵高校）	日本製紙工場跡の利活用（再生エネルギー、データセンター等）
審査員特別賞	SAANY （釧路商業高校）	子ども自身が絵を描く自分だけのオリジナル絵本の制作・販売
	釧路フォーラム22 （釧路明輝高校）	都市整備による防災に強い街づくり
	牛乳班 （標茶高校）	標茶町産牛乳を使った牛乳ラーメンによるまちおこし
	市街地の構造改革 （釧路湖陵高校）	廃ビル・空き店舗利用と交通網の整理・改革による市中心部の活性化
	釧路食品隊 （釧路明輝高校）	食品ロス減少に向けた余剰食材の地域内活用
アイデア賞	2年4組5班 （釧路明輝高校）	高校生からシニアまで幅広い世代でサポートする子育てしやすい街づくり
	芳澤金融機関 （白糠高校）	白糠町を舞台としたVR サバイバルゲームの開発



### 別海高校「お菓子が町（世界）づくり」（地方創生部門）

めでたく最優秀賞に選ばれたのは、別海高校のチーム「お菓子が町（世界）づくり」（テーマ名・同）です。

別海町には酪農日本一の町であることを活かした特産品が少ないことや、ふるさと納税の返礼品が海産物中心で、地元の人にとっては特別感や魅力を感じにくいことを課題に挙げ、解決策として①別海町の「牛乳の高付加価値化」を目指したお菓子の開発②道東を中心とする企業が扱う機能性食品（エゾウコギ、ラフィノース等）を使って、健康を増進する食品（お菓子）をつくる、というプランでした。

オンライン表彰式では、伊藤審査委員長が画面上で表彰状を読み上げた後に当金庫スタッフが直接教室を突撃するサプライズを実施しました。当チームには、釧路特産品の「ふき紙」を使用した賞状と、賞品として「クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 見学ツアー」が贈られました。



# 根釧の経済概況（令和3年9月末基準）：根室管内

水産：管内の水揚げ数量合計は前年同期比16.9%増加、金額は同22.4%増加。

①根室管内総水揚げ（各年1~9月）

	根室市		根室管内3町		根室管内合計			
	数量(t)	金額(百万円)	数量(t)	金額(百万円)	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
R 3	34,748	10,120	52,890	12,691	87,728	+16.9%	22,811	+22.4%
R 2	31,957	9,488	43,089	9,141	75,046	▲19.0%	18,629	▲27.5%
R 1	42,039	12,166	50,556	13,528	92,595	▲7.2%	25,694	▲6.9%
H30	51,993	15,235	47,826	12,365	99,819	+17.9%	27,600	▲3.7%
H29	43,306	15,246	41,330	13,407	84,636	▲18.1%	28,653	▲20.9%

②秋サケ漁(根室管内・各年9月末)

	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	単価(円/kg)
R 3	2,291	▲9.6%	2,025	884
R 2	2,533	▲30.9%	1,868	737
R 1	3,667	+20.4%	2,145	585

③サンマ漁(根室・各年9月末)

	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	単価(円/kg)
R 3	5,215	+61.7%	2,175	417
R 2	3,226	▲46.3%	1,403	435
R 1	6,010	▲74.9%	2,443	406

○R3年9月末時点の数量は2,291tで前年比9.6%減少。目廻りは3.1kgで昨年をやや上回り、金額は20億25百万円と前年同期比26.6%増加。野付以北が前年比プラスとなっており11月末の終漁も速報値で漁獲量4,915tと前年比12.8%増加した一方、南部では赤潮の影響もあり10月以降低調に推移した。

○水揚げ数量は5,215tと、前年同期と比較して増加したものの低調に推移。

酪農：根釧管内生乳生産量は、前年実績を2.9%上回る。

根釧管内生乳生産量（各年4~9月）

年度別	数量 (t)	前年比
R 3	713,526	+2.9%
R 2	693,347	+1.9%
R 1	680,329	+1.8%
H30	668,134	▲0.1%

生乳生産(4~9月)

・根釧管内生乳生産量の上半期（4~9月）実績は713千tと前年同期比2.9%増加。  
・根室・釧路管内ともに生乳生産は堅調に推移し、前年同期比増産傾向にある。  
・十勝・北網地区も同増加となり、北海道全体では2,076千tで同2.5%の増加。

地区別	数量 (t)	前年比
全道	2,076,089	+2.5%
十勝	665,157	+4.3%
北網	311,357	+2.7%
根室	437,280	+3.7%
釧路	276,246	+1.6%

今後の需給動向等

R3年4~9月は、北海道全体で生乳生産量は高水準で推移。一方で、コロナ禍を背景に生乳需給が大幅に悪化し、脱脂粉乳・バターの過剰在庫が増加している。生産者段階で一時的な出荷抑制も求められ、Jミルクが助成策を講じている。

○R3年根室管内月別伸び率(前年同月比・%)

4月 +2.4%	5月 +2.6%	6月 +3.3%
7月 +3.9%	8月 +4.9%	9月 +5.0%

家畜取引：根室市場は取引頭数で前年同期比2.7%増加、金額は同5.5%増加。別海市場は取引頭数は6.0%増加、金額は前年同期比20.4%増加。

□根室市場取引高（各年4~9月）

	取扱頭数(頭)	前年比	金額(百万円)	前年比	単価(千円)
R 3	22,420	+2.7%	5,625	+5.5%	250
R 2	21,824	+15.2%	5,327	▲5.3%	244
R 1	18,934	+2.3%	5,626	▲6.2%	297

□別海市場取引高（各年4~9月）

	取引頭数(頭)	金額(百万円)
R 3	4,864	900
R 2	4,586	747
R 1	4,268	907

□種類別価格(根室市場)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
初生ホルスタイン社 (単位：千円)	101.0	110.1	131.4	99.3	81.6	74.5
肉牛ホルスタイン経産牛 (単位：千円)	178.5	184.6	194.4	187.9	173.2	158.5

貿易：輸出は前年比減少、輸入は前年同期比増加。(R3年1~9月貿易実績・根室税関支所発表・())内前年同期比)

- 【総額】43億52百万円(+13.2%) 外国貿易船の入港隻数227隻(前年比9隻減少)
- 【輸出】56百万円(▲48.6%) 冷凍魚介類全減、一般機械(16百万円、3.9倍)、輸送用機器(33百万円、▲53.4%)
- 【輸入】42億95百万円(+15.0%) 生鮮魚介類(41億78百万円、+20.3%)、冷凍魚介類(1億15百万円、▲49.2%)
- ・輸出…一般機械が増加するも、冷凍魚介類、輸送用機器が減少となったため、全体として減少。
- ・輸入…冷凍魚介類が減少するも、生鮮魚介類が増加となったため、全体として増加。

## 根釧の経済概況（令和3年9月末基準）：釧路地区

■釧路港は、サンマの水揚げが増えるも、依然として不漁が続く。一方、イワシは前年に引き続き好調に推移し、全体の水揚げ数量は同2.8%の増加。

### ①釧路港総水揚げ高(各年1~9月)

全体				
	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
R 3	133,539	+2.8%	5,480	+7.7%
R 2	129,899	+40.1%	5,085	+6.5%
R 1	92,686	+22.2%	4,773	▲2.2%
H30	75,819	▲15.0%	4,881	▲22.1%
H29	89,230	+31.4%	6,273	+7.2%

（うち、スケソ）					
	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減	単価(円/kg)
	26,213	+0.1%	1,111	▲1.0%	42
	26,170	+25.2%	1,122	▲10.4%	43
	20,899	▲1.6%	1,252	+0.5%	60
	21,238	▲25.8%	1,247	▲13.9%	59
	28,639	+3.5%	1,448	▲4.6%	51

### ②釧路港魚種別水揚げ(R3年1~9月)

主な魚種	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
サンマ	94	94倍	42	9.7倍
サケ・マス	48	+118.1%	27	+26.4%
スケソ	26,213	+0.1%	1,111	▲1.0%
マダラ	4,098	▲10.0%	711	前年並
ホッケ	161	+24.8%	34	3.2倍
イカ	29	▲81.4%	7	▲89.7%
カレイ類	205	▲19.2%	59	▲2.2%
イワシ	101,171	+3.6%	3,105	+13.8%
サバ	8	純増	0.3	35.1倍

### ③厚岸港水揚げ高(各年1~9月)

	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
R 3	6,208	▲14.4%	2,044	+17.2%
R 2	7,252	+2.5%	1,743	▲11.2%

### ④厚岸港魚種別水揚げ(R3年1~9月)

主な魚種	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
サンマ	576	9.7倍	255	3.5倍
秋サケ	0.2	▲58.7%	0	▲58.7%
あさり	1,151	+6.0%	663	+37.3%
かき	458	+5.7%	337	▲10.9%
その他	4,021	▲29.1%	787	▲2.7%

### 釧路港水揚げ

- ・1~9月の合計は、数量が前年同期比2.8%増加、金額は同7.7%増加。魚種別で見ると、サンマ、サケ・マスは前年同期比数量・金額ともに増加するも依然として低調に推移。イワシは昨年に引き続き豊漁で、数量が前年同期比3.6%増加、金額では13.8%増加。イカは数量が前年同期比81.4%減少、金額では同89.7%減少と、数量・金額ともに大幅減少。

### 厚岸港水揚げ

- ・1~9月の合計は、数量6,208tで前年同期比14.4%の減少、金額は20億44百万円で同17.2%の増加。魚種別で見ると、サンマの数量が576t、金額が2億55百万円と、昨年に比べ大幅に増加するも依然として低調。あさは数量・金額ともに前年同期比増加。かきは数量が増加するも金額は減少推移。

製紙：市内製紙工場の上半期（4~9月）生産量は、前年同期比0.2%増加。

※日本製紙釧路工場撤退に伴い、今期より生産量の前年同期比のみのお知らせに変更いたします。

### 観光：令和3年4~9月の観光客入込人数 ※peachiは集計対象外

- ・釧路市の令和3年度（令和3年4~9月）の観光入込客数は、1,384千人で前年同期比55.0%の減少。
- ・航空（道外）55千人（前年同期比+36.3%） 阿寒遊覧船 24千人（同▲19.8%） 丹頂鶴自然公園（有料）11千人（同+7.3%） 湿原展望台 25千人（同+7.1%） MOO 185千人（同+6.7%）

貿易：輸出・輸入ともに前年同期比増加。

(R3年1~9月貿易実績・釧路税関支所発表・)内前年同期比

【総額】 743億76百万円(+19.4%) 釧路港外国貿易船入港数322隻（前年同期比21隻増加）

【輸出】 100億54百万円(+35.8%)

・魚介類・同調製品(24億34百万円・+55.7%)、鉄鋼くず(36億66百万円・+80.0%)、紙類・同製品(21億28百万円・▲11.7%)

【輸入】 643億22百万円(+17.2%)

・飼料(113億98百万円・+6.3%)、とうもろこし(213億71百万円・+61.4%)、肥料(83億87百万円・▲29.8%)

・石炭(53億57百万円・+26.9%)、魚介類(28億52百万円・▲5.7%)

# 全国・全道の経済概況（令和3年9月末基準）

## 住宅着工戸数

### 全国

■ R3年4~9月着工戸数は445千戸で前年同期比7.7%増加。  
内訳 持家、貸家、分譲において前年同期比増加。月別ではすべての月で増加。

月別		
	着工戸数(戸)	前年比
R3年 9月	73,178	+4.2%
R3年 8月	74,303	+7.5%
R3年 7月	77,182	+9.8%
R3年 6月	76,312	+7.3%
R3年 5月	70,178	+10.2%
R3年 4月	74,521	+7.7%
R3年4~9月計		
	445,674	+7.7%
内訳		
持家	+13.3%	貸家 +8.9%
給与	▲9.2%	分譲 +1.0%

■ R3年度上期は10兆4,288億円で前年同期比0.5%減少。月別では、7月・9月以外で前年同期比を上回る。

月別		
	工事請負契約額(億円)	前年比
R3年 9月	20,199	▲13.3%
R3年 8月	16,066	+1.1%
R3年 7月	19,057	▲12.6%
R3年 6月	21,581	+9.4%
R3年 5月	13,873	+14.6%
R3年 4月	13,508	+12.1%
年半期毎推移		
	工事請負契約額(億円)	前年比
R3年 4~9月	104,288	▲0.5%
R2年 4~9月	104,861	-

(※) R3.4の推計方法変更に伴いR2年まで表示

## 公共工事請負高

■ R3年度上期の倒産件数は2,938件で前年同期比25.7%減少。  
負債額は5,784億円で同3.8%減少。

年半期毎推移 (金額単位：億円)				
(各年4~9月)	件数(件)	前年比	負債額	前年比
R3年	2,938	▲25.7%	5,784	▲3.8%
R2年	3,956	▲5.2%	6,012	+6.5%
R1年	4,172	+4.0%	5,646	▲27.1%
30年	4,012	▲4.4%	7,749	+1.7%
29年	4,197	+3.4%	7,618	+12.8%

## 訪日外国人延宿泊客数

■ R2年の延宿泊客数は20,345千人、前年同期比82.4%減少。  
新型コロナウイルス感染症の影響から全ての月で大幅な減少推移。  
国籍別では、第1位の中国に続き台湾、アメリカと続く。

R2年度下期 月別推移			R2年 国籍別	
月	(千人)	前年比	国籍	シェア
3月	264	▲79.4%	中国	26.2%
2月	206	▲96.2%	台湾	13.8%
R3年1月	457	▲95.8%	アメリカ	8.3%
12月	550	▲94.0%	香港	7.5%
11月	470	▲94.8%	韓国	5.5%
10月	301	▲97.0%	オーストラリア	4.7%
			タイ	4.6%
			その他	29.4%
年別推移(1~12月)(千人)			合計	100%
R2年	20,345	▲82.4%		
R1年	115,656	+22.7%		

### 全道

■ R3年4~9月着工戸数は19千戸で前年同期比4.1%増加。  
内訳 持家、給与は前年同期比増加。貸家、分譲は同減少。

月別		
	着工戸数(戸)	前年比
R3年 9月	3,285	+19.3%
R3年 8月	2,996	▲20.2%
R3年 7月	2,890	+0.7%
R3年 6月	3,302	+4.9%
R3年 5月	3,107	+10.8%
R3年 4月	3,468	+17.5%
R3年4~9月計		
	19,048	+4.1%
内訳		
持家	+15.2%	貸家 ▲2.8%
給与	+84.2%	分譲 ▲3.9%

■ R3年度上期は7,722億円で前年比3.8%減少。発注機関別においては、独立行政法人を除き、請負金額は全て前年同期比減少となる。

年半期毎推移		
	前払保証請負額(百万円)	前年比
R3年 4~9月	772,273	▲3.7%
R2年 4~9月	802,543	+6.4%
R1年 4~9月	754,235	+12.2%
発注機関別		
	前払保証請負額(百万円)	前年比
国	238,130	▲0.4%
道	158,572	▲9.9%
道内市町村	228,220	▲2.4%
独立行政法人等	91,837	+1.2%
地方公社	309	▲65.5%

■ R3年度上期の倒産件数は65件で前年同期比31.5%減少。  
負債額は94億円で同3.7%減少。

年半期毎推移 (金額単位：億円)				
(各年4~9月)	件数(件)	前年比	負債額	前年比
R3年	65	▲31.5%	94	▲3.7%
R2年	95	▲12.0%	98	▲33.3%
R1年	108	+1.9%	147	+48.5%
30年	106	▲19.7%	99	▲57.5%
29年	132	+1.5%	233	+32.4%

■ R2年度の延宿泊客数は61千人で前年度比99.1%の減少。  
R2年度の国籍別では、香港のシェアが17.2%と最も高く、次いで中国、アメリカと続く。

R2年度下期 月別推移			R2年度下期 国籍別	
月	(人)	前年比	国籍	シェア
3月	6,185	▲91.7%	香港	6,484 17.2%
2月	7,740	▲98.8%	中国	5,214 13.8%
R3年1月	7,688	▲99.3%	アメリカ	3,393 9.0%
12月	10,566	▲99.0%	シンガポール	3,339 8.8%
11月	2,094	▲99.1%	オーストラリア	2,442 6.4%
10月	3,332	▲99.3%	タイ	1,586 4.2%
			台湾	1,226 3.2%
			その他	13,921 37.0%
年度別推移(千人)			合計	37,605 100%
R2年度	61	▲99.1%		
R1年度	7,536	▲10.8%		

# 根釧の経済概況（令和3年9月末基準）

住宅着工戸数

## 根室

■ R3年4~9月着工戸数は54戸で前年同期比17戸増加。  
内訳 持家が前年同期比13戸増加、貸家は同3戸減少。  
給与は同7戸増加。

□根室市住宅着工戸数

		月別		
		戸数(戸)	前年比(戸)	前年比
R3年	4~9月	54	+17	+45.9%
R3年	9月	8	+5	+166.6%
R3年	8月	7	+4	+133.3%
R3年	7月	13	+3	+30.0%
R3年	6月	8	+4	+100.0%
R3年	5月	14	+1	+7.6%

		半年期毎推移・利用別					
		持家	貸家	給与	分譲	合計	前年比
R3年	4~9月	37	10	7	0	54	+45.9%
R2年	4~9月	24	13	0	0	37	+2.8%
R1年	4~9月	26	10	0	0	36	前年並

公共工事請負高

■ R3年度上期は請負額188億円で前年同期比10.3%の減少。  
工事種類別でみると、主要工事の一般土木は前年同期比3.5%減少。建築は同24.2%減少。

		半年期毎推移	
		前払保証請負額(百万円)	前年比
R3年	4~9月	18,855	▲10.3%
R2年	4~9月	21,034	前年並
R1年	4~9月	21,031	+15.9%

		工事種類別 (R3年4~9月)	
		前払保証請負額(百万円)	前年比
	一般土木	11,417	▲3.5%
	舗装	669	▲15.2%
	建築	3,286	▲24.2%
	電気	1,150	▲1.7%
	管	418	▲28.6%

企業倒産動向

■ R3年4~9月の根室管内は倒産件数0件(前年:倒産件数2件、負債額33百万円)

各年(4~9月)	年別			
	【根室管内】		【うち根室市】	
	件数	負債額(百万円)	件数	負債額(百万円)
R3年	0	0	0	0
R2年	2	33	0	0
R1年	1	98	0	0
30年	2	107	0	0
29年	6	2,840	1	312

訪日外国人延宿泊数

■ R2年度下期の外国人延宿泊客数は325人で前年同期比92.2%減少。国籍別にみると、ベトナムがシェア37.5%と最も多く、次いで中国、台湾と続く。

R2年度下期 月別推移			○R2年度下期 国籍別		
月	(人)	前年比	国籍	(人)	シェア
3月	54	▲70.1%	ベトナム	122	37.5%
2月	41	▲98.1%	中国	35	10.7%
R3年1月	81	▲89.3%	台湾	27	8.3%
12月	63	▲77.3%	韓国	16	4.9%
11月	36	▲76.4%	ロシア	10	3.0%
10月	50	▲92.7%	フランス	10	3.0%
年度別推移			イギリス	9	2.7%
R2年度	641	▲92.7%	その他	96	29.5%
R1年度	8,900	▲21.1%	下期合計	325	100%

## 釧路

■ R3年4~9月着工戸数は377戸で前年同期比14戸減少。  
内訳 持家前年比32戸増加に対し、貸家は44戸減少。

□釧路市住宅着工戸数

		月別		
		戸数(戸)	前年比(戸)	前年比
R3年	4~9月	377	▲14	▲3.5%
R3年	9月	38	▲69	▲64.4%
R3年	8月	50	▲6	▲10.7%
R3年	7月	106	+62	+140.9%
R3年	6月	84	+36	+75.0%
R3年	5月	50	▲24	▲32.4%

		半年期毎推移・利用別					
		持家	貸家	給与	分譲	合計	前年比
R3年	4~9月	214	137	2	24	377	▲3.6%
R2年	4~9月	182	181	3	25	391	前年並
R1年	4~9月	199	157	2	33	391	+3.4%

■ R3年度上期は請負額356億円で前年同期比14.5%の減少。  
工事種類別では、一般土木が5.1%減少、建築24.8%の減少、電気が11.3%の減少。

		半年期毎推移	
		前払保証請負額(百万円)	前年比
R3年	4~9月	35,607	▲14.5%
R2年	4~9月	41,686	+13.7%
R1年	4~9月	36,657	+6.7%

		工事種類別 (R3年4~9月)	
		前払保証請負額(百万円)	前年比
	一般土木	20,383	▲5.1%
	舗装	992	▲36.3%
	建築	6,142	▲24.8%
	電気	2,008	▲11.3%
	管	946	▲46.5%

■ R3年4~9月の釧路管内は倒産件数5件、負債金額は443百万円。  
件数前年同期比3件減少、金額は同310百万円減少。

各年(4~9月)	年別			
	【釧路管内】		【うち釧路市】	
	件数	負債額(百万円)	件数	負債額(百万円)
R3年	5	443	5	443
R2年	8	753	4	284
R1年	4	231	2	99
30年	5	433	5	433
29年	10	1,484	8	1,362

■ R2年度下期の外国人延宿泊客数は424人で前年比99.5%の減少。国籍別にみると、アメリカがシェア21.4%と最も多く、次いで中国、ベトナムと続く。

R2年度下期 月別推移			R2年度下期 国籍別		
月	(人)	前年比	国籍	(人)	シェア
3月	78	▲88.3%	アメリカ	91	21.4%
2月	57	▲99.7%	中国	56	13.2%
R3年1月	27	▲99.8%	ベトナム	25	5.8%
12月	40	▲99.7%	台湾	18	4.2%
11月	67	▲99.2%	韓国	15	3.5%
10月	155	▲98.6%	イギリス	9	2.1%
年度別推移			フランス	9	2.1%
R2年度	1,600	▲99.0%	その他	201	47.4%
R1年度	167,106	▲10.8%	下期合計	424	100%



2022.01

# MIRAI REPORT ISSUE.009

 **大地みらい**信用金庫 地域みらい創造センター